

内乱ノ隠謀ヲ爲シ未幾備ニ至ラザル者ハ各二等ヲ減ス
刑罰第百四條曰ク二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ
「修正犯」ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス
刑罰第六十八條曰ク國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左
ノ等級ニ照シテ加減ス
一 死刑
二 無期流刑
三 有期流刑
四 重禁獄
五 輕禁獄

右ノ理由ナラニ因リ高等法院ニ於テ被告ハ河野廣中
田母野秀顯愛澤澤平島松尾花香次郎澤田清之輔
ニ對シ刑罰第百二十五條第二項ニ依リ刑罰第百廿一
條第一項ノ例ニ照シ二等ヲ減シ各有期徒刑ニ處ス可
キ處原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑罰法第八十九條第一
項ニ重罪輕罪違審罪ヲ分テ所犯情狀原諒ス可キ者
ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得刑罰法第九十條ニ酌
量シテ減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スト
アルニ依リ各有期徒刑ニ二等ヲ減シ刑罰法第廿三條輕
禁獄六年以上八年以下ノ範圍内ニ於テ河野廣中ハ輕
禁獄七年田母野秀顯愛澤澤平島松尾花香次郎澤
田清之輔ハ各輕禁獄六年ニ處スル者也
明治十六年九月一日東京高等法院ニ於テ檢事渡邊
騷檢事竹内維積檢事堀田正忠檢事澄川拙三立會宣
告ス

高等法院裁判長判事 玉乃 世履
高等法院陪席裁判官元老院議員 長岡 龍美
高等法院陪席裁判官 河田 景興
高等法院陪席裁判官 岡内 友幸
高等法院陪席裁判官 關内 義俊
高等法院陪席裁判官 武久 昌字
高等法院陪席裁判官 竹尾 道忠
高等法院陪席裁判官 荒木 龍光

時事新報

支那ハ能ク爲スコトナキナリ
佛國ノ遠征軍ハ遂ニ安南ノ國都順化府ヲ占取セタリ
我輩ガ數日前ヨリ時事新報紙上ニ於テ報道スル如ク
橫濱「ニコ、ヤコ、ヤコ」新聞ハ八月廿九日ノ紙
上ニ佛國水師提督「クルベ」氏ハ艦隊ヲ率テ順化府河
口ノ防守ヲ破リ兵員ヲ上陸シテ府城ヲ攻撃シ遂ニ
レヲ占取シタルヨシ昨夜東京ノ其筋ハ電報到來シタ
リト記シ又八月廿七日倫敦ヨリノ電報ハ「テンブ
新聞(巴黎刊行)ハ其紙上ニ安南國王ハ佛國使節ニ降
新シタリト公言セリトアリ又佛國ガ安南ヲ保護スル
ノ仕組ハ既ニ確定シタリトモアルノミナラズ一昨朝
「ニコ、ヤコ、ヤコ」新聞ハ今日佛國ガ順化府
占取ノ後使節「ハーマン」氏ト安南ノ全權大臣ト締約
シタル條約書ノ大意(本日ノ雜報欄内ニ譯出ス)ヲ記
シ是ハ在上海ノ佛國公使「トリク」氏ヨリノ電報ナ
リトアルヲ見ル以上ハ今回佛兵ガ安南ノ國都ヲ占取
シ同時ニ佛國ガ安南ニ對シ十分ノ保護權ヲ握ルニキ
條約ヲ結ビタルハ相違モナキ事ニシテ其時日ハ未ダ
判然セザレハ八月ノ下旬ナルヘシト察セタル、ナリ
佛兵ハ既ニ東京地方ニ占據シ今又安南國王ノ在ル

所屬化府ヲ領事ト同時ニ安南全國ヲ舉ゲテ佛國ノ保
護國トスルノ條約ヲ結ビタリ是ヨリシテ佛國人ハ榮
耀、順化府、東京地方ト南北脈絡ヲ相通シ次第ニ内地
諸般ノ障礙ヲ除去シ其名義ハ保護國ニモモト馬邦ニ
モモト其實際ハ安南全國ヲ舉ゲテ佛國西共和國ノ一
殖民地ト爲スハ其日必ズ近キニ在ルベシ
安南ノ現狀既ニ斯ノ如ク彼ノ清國ハ如何シタルヤ清
國ガ安南ヲ屬邦視スルハ一日ノ事ニアラズ又佛國ノ
舉動ヲ恠シミ其封豕長蛇ノ慾ヲ遏メント欲シテ北京
ニ巴里ニ佛廷及ビ其使臣ト論辨難詰スルコト既ニ甚ダ
久シ殊ニ本年五六月ノ頃ハ清國ノ舉動頗ル活潑ヲ加
ヘ急ニ李鴻章ヲ起シテ上海ニ抵ラシメ安南保護ノ事
ヲ南方ノ軍事ヲ督スルト宣言シテ軍艦ヲ艦陸兵ヲ點
呼スルナド其狀体ノ容易ナラザル觀ル者ヲシテ佛國
ノタメニ憂慮セシメ無謀ノ輕舉遂ニ東洋ノ最強國ニ
敵對スルノ困難ニ陥リタリ佛國人ガ多年養成シタル
安南奪取ノ政略ハ到底成功ノ見込ナカルベシナド云
ハシメタリ然レニ佛國ハ清國ノ恐嚇ニ長怖セズ一意
安南策略ヲ推前シテ他ヲ顧ミズ其舉動傍若無人ナル
コモ拘ハラズ清國ハ折角張リ詰メシ勇氣モ何レヘカ
逃ケ失セ今ハ李氏ガ上海ニ滞在スルサヘ手持無沙汰
ナル時宜トナリ勿々天津ニ北歸シタル後ハ野分ノ跡
ノ秋ノ夜ノ如ク四面圍トシテ一壘ヲ聞カス支那全國
ノ人ハ安南論ニ關シテ爾來健忘ノ病ニ罹リ永久平癒
ノ期ナキモノ、如キ狀態ナリ今又安南ノ國都ハ佛兵
ノ占取スル所トナリ安南國王ハ佛軍ニ降リタリ此報
知未ダ以テ清軍ヲ起シテ南下セシムルニ足ラズトセ
ハ清國ハ終ニ安南ヲ爭フノ意ナキモノト斷定セザル
ヲ得ズ左スレバ義キコ軍艦ヲ艦陸兵員ヲ召呼シ理以
テ敵ヲ服スルニ足ラザレバ力以テコレヲ壓スベシト
ノ決意ヲ示シタルモノモ今ニシテコレヲ考レバ皆是
レ例ノ支那論ノ虛囑ニシテ電擊ノナキ雷鳴一般ナリ
シヲ甚タ明白ナリ支那ハ四年前魯國ト伊犁ノ爭論ア
リレ頃ヨリシテ俄ニ海陸軍備ノ擴張ニ從事シ士官ヲ
歐洲ヨリ聘シテ陸兵ヲ訓練シ城壘ヲ修メ大小砲ヲ購
入シ新ニ數十ノ軍艦ヲ求ムルナド日夜孜々トシテ倦
ムコト知ラザリ殊ニ昨年七月初韓漢城ノ變ノ如キ
當時李鴻章ノ不在ニモ拘ハラズ天津ノ總督ハ咄嗟ニ
軍艦十隻陸兵三千ヲ朝鮮ニ派遣シ直ニ王城ヲ據守
シテ號令スル所アリシナド其所置ノ理ニ適スルト否
ヲアルトハ姑クコレヲ舍キ其意大活潑ノ氣象ニ至
リテハ天下ヲ率ケテコレヲ威賞セザル者ナク威ハ多
數ノ中ニハ氣ヲ奪ハレ膽ヲ寒シタル人ノナキニシモ
アラザル程ノ有様ナリ爾來世人ハ支那人ヲ評シテ
今昔ト同一視スベカラズ其活潑勇敢ニ加フルニ海陸

ノ異體ヲ以テ支那ハ侮ルベカラザルナリト云テ大
ニ敬畏ノ意ヲ表シタリシガ今ニシテ又コレヲ考レバ
世人モ亦例ノ通り支那ノ老練軍ノタメニ一若輩隔シ
去ラレタルノミヨレニ由テコレヲ觀ルニ到底支那ハ
能ク爲スコトアル者ニアラザルナリ支那ノ能ク爲ス
アル者ニアラザルハ今回安南事件ニ關シテ佛國判中
ノ一小事ヲ見テモコレヲ斷スルニ餘アリ過日來時事
新報ニ記載シタル巴里駐在ノ支那公使曾紀澤ト佛國
政府外務大臣トノ往復書ヲ一覽スベシ安南ハ支那ノ
屬邦ナリ否獨立國ナリト爭論難解スル其裁判ニ佛國
外務大臣ヨリ千八百八十年九月廿七日ニ贈リタル書
翰ニ對シ曾公使ハ其翌年九月廿四日ニ返書ヲ寄セテ
支那ノ權理ヲ爭ヒタリ即チ一通ノ書翰ヲ載スルニ一
年ノ日月ヲ費シタルナリ反令此事ニ關シ本國政府ニ
稟請スル所アリタルニモモセヨ支那ト佛國トノ間ニハ
電信線ノ連續スルアリ又海船ノ往來スルアリ若シ電
信ノ意ヲ盡サザル所アリテ文書ノ往復ヲ要ストスル
モ三ヶ月ニシテ北京政府ノ返書巴里公使館ニ到着ス
ルヲ得ベシ然ルニ曾公使并ニ北京政府ハ他ニ何ノ緊
要事アリテカ此切迫ノ談判ヲ爲スニ一書一年ノ日月
ヲ費シタルヤ其閑慢實ニ想ヒ見ルベキナリ誰カ料ラ
ン佛國政府ハ人ノ閑慢ヲ俟タズ此一年ノ長日月中ニ
油斷ナク安南策略ヲ推前シテ舉ク既ニ東京ノ沃土ヲ
占有シアラントハ然ルテ尙ホ天下文明ノ勢力ヲ悟ラ
ズ傲然中國ヲ以テ自カラ誇稱シ時ニ虛囑ノ陳手段ヲ
以テ四隣ヲ壓服シ永ク國家ノ安全ヲ計ラントス思ハ
ザルノヨ

雜報

○大山參議 今度北海道幌內鐵道開業式へ出張を
仰付られし大山參議其他太政官書記官の一行は来る
六日筆下を出發するよし尤も右一行は来る十五日の
開業式を終りて猶向ふ十五日間阿房ニ滞在し夫より
札幌機室の關縣下を巡回し小樽を経て海路青森に渡
り山形秋田福嶋れ各縣下を巡回の上來月下旬歸京の
定めありと云いふ
○品川彌二郎君 神戸港に於て開設ある製茶共進會
へ臨場として赴きふる品川農商務大輔の一行は去
月三十日同港へ着翌三十一日同會開場式を執行あり
ふりと其筋ハ電報ありたり
○アルベルト殿下 陸軍省にてハ来る五日頃ハ過日
來遊せらる目下箱根へ入浴中あるワゴン、アルベル
ト殿下の爲より日比谷練兵場にて觀兵式を行ひ其一覽
し供し其後七日八日頃には各兵營學校等へも案内
ありて觀覽せしむるやと聞く